NPO法人 子育て応援
かざぐるま

子育て通信 65 号

札幌市中央区大通西 27 丁目 1-1 円山バスターミナル 2F
てんてん 011-676-3387 ／ 受付問合 090-3117-2294
kazaguruma@oasis.ocn.ne.jp
発行責任者　代表理事　山田智子　【2025.1.1 発行】

あけましておめでとうございます 世界中の子どもたちが幸せに暮らせますように♬

「子育て拠点てんてん」が円山バスターミナル 2 階に転居してから早 1 年半が経ちました。現在の利用者は 0-1 歳児親子が中心で、近年の少子化や保育の無償化、幼稚園の 2 歳児受入れ等による影響を感じています。全国的にも、拠点利用の短期間化や低年齢化は進んでいるといわれています。しかしながら、円山麓の旧てんてんで赤ちゃん時代を過ごした幼稚園児親子もよく遊びに来て成長した姿を見せてくれ、赤ちゃん親子との異年齢交流もできて嬉しく思います。

今年はNPO法人となって 20 周年、任意団体設立から 39 周年を迎え、全国でも屈指の老舗の子育て支援団体となりました。秋元市長に提言している「官民協働の多機能型子育て支援」の実現はまだまだ遠く、財政的に厳しい状況は今後も続くと思われますが、スタッフ一同、地域の親子のため、また日本社会の子育てを豊かにしていくため、一つひとつの活動を丁寧になお一層の充実を目指していきますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人子育て応援かざぐるま　代表理事　山田智子、スタッフ一同

//

申込みフォーム

「応援ブック第 3 版」のポイント　　川田　学（北海道大学准教授・かざぐるま理事）

「応援ブックの第 3 版」は、初版（2019）と改訂版（2021）を超える内容が数多く盛り込まれています。ここでは特に2つお伝えしたいと思います。第1に、表紙および本文内のイラストがほとんど変わり、より分かりやすく、そしてかわいらしくなりました。これらは、かざぐるまの利用者である田中藍さんによる作品で、子育ての合間を縫って多大なるご協力をいただきました。田中さんのイラストによって、応援ブックの中の子どもたちや大人たちが生き生きと躍動しています。この場を借りて、感謝を申し上げます。

第 2 に、冒頭の「1 子どもを育てるということ」で、「子どもの権利」について取り上げました。2024 年は、日本が国連子どもの権利条約に批准した 1994 年から 30 年の節目になります。子どもの権利条約は、1989 年に国連総会で採択された、いわば「子どもの世界憲法」です。子どもたちは生まれた時から権利の主体であり、独立した人格であり、誰かの所有物ではありません。生きること、育つこと、学ぶこと、遊ぶこと、休むこと、差別されないことなどの権利を有し、そして、周囲の人びとや社会に自分の意見を述べ、貢献し、参加する権利があります。

子どもの権利条約批准 31 年目に向けて、「子どもの最善の利益」を考える日本、北海道であってほしいと願います。そのために、応援ブックを活用していただけたら幸いです。

【発行日】 2024 年 9 月 25 日
【発　行】 NPO法人子育て応援かざぐるま
【監　修】 川田　学・加藤静恵
【執　筆】 山田智子・川田　学・加藤静恵
【挿　絵】 田中　藍
【協　力】 中谷通恵・迫きよみ・藤田春義・田中宏明
【発行人】 山田智子
【形　式】 B5版 48 頁（表紙カラー・中身白黒）
【頒布価格】 1冊　500 円

内容一覧（もくじ）

テ　ー　マ	頁		
はじめに	1	12　目と目を合わせる（アイコンタクト）	19
1　子どもを育てるということ	2-3	13　赤ちゃんの発達を促すふれあい遊び	20-27
2　赤ちゃんを迎える準備＆環境づくり	4-5	14　生活の流れ～1歳を過ぎたら	28-29
3　赤ちゃんとのかかわり方	6-7	15　食べる・眠る	30
4　現代人のからだの変化	8	16　排泄	31
5　赤ちゃんのからだの発達	9-10	17　あそぶ	32-33
6　赤ちゃんの基本の姿勢	11	18　自然とのふれあい	34
7　新生児期の赤ちゃんのお世話のポイント	12	19　乳幼児とスマホ・タブレットのつき合い方	35
8　抱っこの基本	13	20　わらべうたと絵本	36-37
9　赤ちゃんが安心する寝床＆おくるみ	14	21　パパたちの「いま」を考える	38
10　様々な目的の抱っこ	15-17	0・1・2・3歳の育ちの道のり	39-48
11　移動のための抱っこ	18		

【購入方法】 子育て拠点てんてんで購入、または申込みフォームから申込み→振込み→入金確認次第、随時送付
【協　力】 <ろうきん>働く人と子どもの明日を応援プロジェクト寄付金、生活クラブ福祉基金の助成を受けて作成
【進　呈】 市内道内全国へ 520 冊～道内地域子育て支援拠点 416、市内各区保健センター10、その他、所縁のある団体
【その後の拡がり】 全道、全国へ 1700 冊
○市町村の「**乳児家庭全戸訪問**」時配布、拠点・こども園・保育園で家庭に配布、**町内会**で赤ちゃん誕生家庭にプレゼント
○保育士・保健師・看護師**養成校サブテキスト**、拠点・保育士・保健師等のそれぞれの**支援の拠り所**
○伴奏型相談支援の一環として行う妊娠8ヶ月頃の妊婦を対象とした「**後期妊婦面談**」で希望者に配布
＊妊婦さんに**母子手帳配布時**に渡すイメージで作成しています。みなさんの団体や自治体でもぜひご活用ください！

「子育て応援ブック第 3 版」へ込めた思い　　山田智子（NPO 法人子育て応援かざぐるま代表理事）

約 3 年間のコロナ禍を経て少子化はますます進行し、様々な問題が顕在化しています。父親が産休や育休を取得しやすくなり、子育てに積極的にかかわる父親が増えてきた一方で、父親の産後うつも社会問題となっています。小さな子どもたちの YouTube 視聴など、メディアとの付き合い方も課題となっています。また、新生児～首すわり前の赤ちゃんが縦抱きされ、頭を支えてもらえずに首を後屈させて眠っていたり、体重の 1/3 の重さがある頭を支えるために首や肩や胸を硬直させている赤ちゃんが増えていると実感します。首の骨や筋肉が傷つくと、動くこと、眠ること、飲むこと、食べること、出すこと、遊ぶことにも影響するのだそうです。身体に合わない抱っこ紐で赤ちゃんを抱っこしていると、保護者の身体もしんどそうです。今、かざぐるまにできることは何でしょう。。。

それらの課題解決に向けて現状をふまえたこれからの子育て支援を考えるために、昨年の 5 月から 9 月まで「子育て支援こころとからだ基礎コース 12 講座」を開催し、道内のべ 364 人の支援者と学び合いました。そして、その学びをもとに、かざぐるま理事で北大子ども発達臨床研究センター准教授の川田学さんと小児科医の加藤静恵さん、絵が得意な田中藍さんにご協力いただいて「子育て応援ブック第 3 版」を作成した次第です。これからも時代は移り変わっていく。その変化を見据えて今、必要と思われる子育ての情報を、これからも分かりやすく伝えていきたいと思っています。

「子育て応援ブック第 3 版」発行に寄せて　　加藤静恵さん（小児科医・リハビリテーション学会認定臨床医）

安楽・安心な子育てには、身体の状況に注目し、心地よい子宮で胎児の生活を保障し、親子ともに安楽な妊娠生活、分娩、育児の支援が必要です。「人は、魂の柔らかい幼児期に書き込まれた『筋書き』を、相手を変えながら一生繰り返すことがある。その基本の『台本』の相手役は、幼児期の重要な他者、つまり両親（養育者）であることが多いが、その他者との関係性が台本のもとになる。（北山修九州大学名誉教授　私の歩んできた道）」

さて、胎児・新生児期からの丁寧なかかわりを知っていただくために第 3 版を改訂しました。早期発見・早期治療ではなく、子どもの順調な発達に向け、保護者を中心とする周囲の人々の喜びとするためのかかわり方をお伝えしています。育児休暇がママだけでなくパパも取得し、新生児・乳児期の子育てが初心者マークの保護者に任されています。保育園での乳児保育ではなく、地域子育て支援拠点が情報を発信する場として重要になりました。赤ちゃんにやさしい育児に必要な保護者・保育者の身体づくり、身体の感覚・運動機能・姿勢保持力・視覚認知は胎児期から母の語り掛や養育者とのやり取り（生活動作を言語化する）や、模倣を介して体験を積める遊びを紹介しています。冊子を手に取っていただいた保護者・保育者が子どもの成長・発達を自ら促すことで、子どもの「これでいいのかな？」「他の子はどうなの？」「これからどうすればいいの？」という迷いが減り、親子の自己効力感が増すお手伝いが出来るとうれしく思います。

「子育て支援こころとからだ基礎コース 12 講座」終了　のべ 364 人の支援者受講♪

今、親になる人のほとんどが、乳幼児との生活の仕方や発達を学ぶ機会がないままに親になり、子育て支援や保育の現場では、子どもの育ちだけではなく、保護者の学びと成長を支えていくことが益々重要となる一方で、急激な3歳未満児の保育需要の高まりにより、子育て経験のない若い保育者が乳児保育を担うことも多くなり、子育て支援の現場には子育てや乳幼児の発達について専門的に学習した経験のない支援者も多くいます。

順	講座名	講師	日時
1	子育ての現状＆子どもとのくらし①～子育ての現状編	山田智子さん N)子育て応援かざぐるま 代表理事	2024年 5月11日(土)13:30～16:00
2	0歳児の子育て支援①～実践見学編	迫きよみさん 子育ての文化研究所事務局長・N)子育てを楽しむ会理事長 【京都府】	5月18日(土)10:00～12:00
3	0歳児の子育て支援②～解説講義編		5月18日(土)13:30～16:30
4	自然とのふれあい実技～円山原生林	田中住幸さん 日本自然保育学会理事・札幌大谷大学短期大学部保育科准教授	6月15日(土)13:30～16:00
5	産前からのプレママ＆プレパパ支援	矢野根絵里子さん feel助産院院長	6月29日(土)13:30～16:00
6	子どものからだへの見方・接し方①	加藤静恵さん 小児科医・リハビリテーション学会認定臨床医	7月6日(土)13:30～16:00
7	子どものからだへの見方・接し方②		7月20日(土)13:30～16:00
8	子どものこころへの見方・接し方①～0-1歳児編	川田　学さん 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授	8月3日(土)13:30～16:00
9	子育ての現状＆子どもとのくらし②～子どもとのくらし編	山田智子さん N)子育て応援かざぐるま代表理事	8月24日(土)13:30～16:00
10	子どもとメディア	中谷通恵さん N)お助けネット代表 子どもとメディア北海道副代表 【白老町】	8月31日(土)13:30～16:00
11	子どものこころへの見方・接し方②～2-3歳児編	川田　学さん 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授	9月7日(土)13:30～16:00
12	12講座振り返りワークショップ	川田　学さん ＆ 山田智子さん	9月28日(土)13:30～16:00

それらの課題解決の一助として、子育て環境のさらなる変化や 0-3 歳児の「こころ」と「からだ」の発達の基本とそれを踏まえた子どもとのかかわり方を系統立てて学ぶ『基礎コース 12 講座』を主催したところ、札幌市のみならず、岩見沢市、恵庭市、千歳市、早来町、白老町、倶知安町、根室市、釧路市、帯広市、中札内村、大樹町からのべ 364 人の参加がありました。受講者のみなさんの所属先は、地域子育て支援拠点、乳児院、産院・助産院、小児科医、保健センター、保育園・こども園、児童館、児童発達支援、行政職員、母子訪問指導員、民生児童委員など多岐に渡り、お互いの視点も学び合うことができました。

【参加者の感想】

○言葉にならない充実した時間でした。
勇気を出して参加して　良かったです！！

○自分の子育て経験だけでは対応できない、保護者の困りごとに対応できる知識を身につけたく参加しました。受講して自分の子育てを見直すことができ、私だからできる支援（共感）をしたいと思え、情報提供の選択肢も増えました。

○川田先生の「成長の節」「卵→青虫→さなぎ→ちょう」の話、分かりやすかったです。皆さんの素晴らしい支援に感動しました。印象に残ったのは「森」「血と肉になる」。子育て支援は、点でなく、線や面での長い支援が必要と思いました。

○親も、支援する側も、知る場所、共有できる場作りを考えていきたいです。まずは、職場で共有します！

【2025 年度の支援者研修】

道内複数の市町村より、2025 年度の支援者研修についての問合せが相次いでいます。
現時点では詳細は未定ですが、「応援ブック第 3 版」をテキストとした支援者の学びの機会は作る予定で検討しています。
子ども・子育てにかかわる支援者の学び合いの機会はとても重要と感じていますので、かざぐるまホームページで最新情報をご確認ください。

2025 年度 2 歳児の森のようちえん「トコトコくらぶ」16 期のご案内

2 歳児の森のようちえん「トコトコくらぶ」は、円山原生林の四季折々の自然とのふれあいや集団生活を通して個々の子どものこころとからだの発達を促すことを目的に、満2才児を対象に週 1 回 2-3 時間、年間 40 回、保護者と離れて保育者や友だちと一緒に森を探索する活動です。子育て応援かざぐるまの自主事業として 2010 年度から活動を開始し、「トコトコくらぶ」OB はのべ約 500 人になりました。

「トコトコくらぶ」の活動は、四季折々の円山の自然に親しみながら、これからの長い人生を生き抜くためのしっかりした体幹と自分のやりたいことを全うできるしなやかなからだを育て、自然を愛する心、自己肯定感や他者への信頼感、感情を調整する力、粘り強くやり抜く力などの生きる力（＝非認知的能力）を育むことにもつながっていると実感します。

【活　動】 週 1 回年間 40 回　4 月 10-12 時／5 月連休明け～10 月末 10-13 時／11～3 月 10-12 時
【対　象】 2022 年 4 月 2 日～2023 年 4 月 1 日に生まれた子ども 12 人×火・水・金曜日 3 クラス
【場　所】 円山原生林・円山動物園
【保育者】 かざぐるまスタッフ（保育士等有資格者）　子ども 3 人に対して保育者 1 人
【保育内容】
○親子で「森の入口」集合→朝の会（わらべうた・挨拶・出席確認・絵本）→保護者退場→森の散策→（午後保育:手洗い→森でおにぎり・わらべうた・絵本→折返し）→帰りの会（報告・挨拶）→解散
○季節や天候に合わせ円山原生林を散策～自分の足でしっかり歩く、走る、またぐ、くぐる、転がる、両手を付き身体を支えてよじ上る、下る、寝転ぶ、両足飛び、滑る、掘る、植物・泥・雨・雪と親しむ等
○入会式、親子遠足、雪遊び、懇談、成長を祝う会等の親子交流会年 8 回（保護者も装備を整え参加）
【受付時費用】 5600 円（利用会員年会費 2000 円・登録料 2000 円・帽子代 1100 円・応援ブック 500 円）
【保育料】 11000 円（保育料 10000 円・事務費 1000 円）×12 か月
【受　付】 1 月 15 日（水）10 時開始（子育て拠点てんてん）　＊12 月の説明会の時点で 30 名の入会希望がありました
【問合先】 kazaguruma@oasis.ocn.ne.jp（担当山田）

かざぐるまのスタッフ募集！　かざぐるまの新たな歴史を一緒に作っていきましょう♪

「子育て応援かざぐるま」は、1986 年に任意団体として設立した後に 2005 年にNPO法人化し、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を育む全ての人々が必要とする情報やサービスの提供、子育て支援のネットワーク推進に関わる事業を行い、全ての子どもが安心して心豊かに育つことが保障される地域社会の実現に寄与することを目的に活動しています。当初は訪問保育を中心に活動していましたが、2009 年に念願だった「子育て拠点てんてん」を開設し、週 5 回 1 日 5 時間の子育てひろばを中心に、自主事業としてでんてんでの預かり保育、2 才児の森のようちえん「トコトコくらぶ」、希望する家庭に出向いて行う産前産後サポートや訪問保育、イベント時のグループ保育、札幌大谷大学子育て支援センター「んぐまーま」の運営協力、研修主催や講師派遣など、活動は多岐に渡っています。

法人立上メンバーが 60 代半ばとなり、今後も「かざぐるま」が子育て親子のためにくるくると回っていくために、同じ志を持つ新しい仲間を迎えたいと思います。パート感覚の仕事というより、子育ての現状をふまえ、かざぐるまの趣旨に賛同して活動に携わりたいと思う方に入会していただき、かざぐるまの新たな歴史を一緒に作っていけたら幸いです。

現在のスタッフは、保育士、看護師、助産師、保健師、栄養士の有資格者で、加えて親子への温かな眼差しと子育て支援への情熱は必須です。活動に携わるにあたり、先輩スタッフのサポートの下、全活動に研修に入っていただいています。事務局会計の経験者も併せて募集します。NPO（特定非営利活動）＝営利目的ではありませんが、相当の対価を得て活動することを目指して有償で活動しています。賃金は団体の取り決めに従って時給＋交通費をお支払いしています。興味がお有りの方は、代表山田までご連絡ください。どうぞよろしくお願いします。 **kazaguruma@oasis.ocn.ne.jp**